

## ■ スナップモード、グリッド表示

矩形のグリッドを表示し、これにスナップすることで、短時間で効率よく作図することができます。グリッドは間隔、角度、配列を変更することもできます。

グリッドは、グリッド範囲として指定した領域全体に表示される、ドットまたは線による矩形のパターンです。

グリッドを使用すると、図面の下に方眼紙を置いたときと同じような効果が得られます。

グリッドは、オブジェクトの位置合わせと、オブジェクト間の距離を視覚的に確認する場合に役立ちます。グリッドは印刷されません。

スナップモードを使用すると、クロスヘアカーソルは常に指定した間隔に移動します。

スナップモードをオンに設定すると、カーソルが、見えないグリッドに吸着、すなわち「スナップ」するようになります。

スナップは、矢印キーまたはポインティングデバイスを使用して正確な点を指定する場合に便利です。

グリッドモードとスナップモードは別のものですが、多くの場合、同時にオンに設定します。

コマンドバー  
コマンドバー  
コマンドバー  
スナップモード(F9)

## ■ 直交モード

カーソルの移動を水平方向または垂直方向に制限することで、簡単かつ正確にオブジェクトを作成したり、修正することができます。

オブジェクトを作成したり移動するときに、直交モードを使用して、カーソルを水平軸または垂直軸に制限できます。

カーソルを移動すると、ラバーバンド線が、水平軸または垂直軸（カーソルに近い方の軸）と平行になるように表示されます。

指定した長さの直交する線分を作成したり、距離を指定してオブジェクトを移動する場合は、直交モードをオンにして直接距離入力を使用します。

作図中や編集集中に、いつでも直交モードのオン/オフを切り替えることができます。

座標を入力する場合やオブジェクトスナップを指定する場合は、直交モードは無視されます。

直交モードのオン/オフを一時的に切り替えるには、一時優先キーの [Shift] を押したままにします。

一時優先キーを使用している間は、直接距離入力方法は使用できません。

注:直交モードと後述の極トラッキングは同時にオンにできません。

直交モードをオンにすると、極トラッキングがオフになります。

直交モード(F8)

コマンド:

047080, 224.0755



## ■ 極トラッキング

極トラッキングを使用すると、指定した角度にカーソルの移動が制限されます。

オブジェクトを作成したり編集する場合に、極トラッキングを使用して、指定した極角度によって定義された一時的な位置合わせパスを表示できます。

極角度は現在のユーザ座標系 (UCS) の方向と、図面内の基準の角度規則の設定を基準にしています。

角度の方向の基準は、[単位管理] ダイアログ ボックス (UNITS [単位管理]) で設定します。

カーソルを移動中に、カーソルを極角度の近くに移動すると、位置合わせパスとツールチップが表示されます。

既定の角度計測は90度です。

位置合わせパスとツールチップを使用してオブジェクトを作図します。

注: 直交モードと極トラッキングは同時にオンにできません。

極トラッキングをオンにすると、直交モードがオフになります。

コマンド: 極トラッキング(F10)

コマンド:

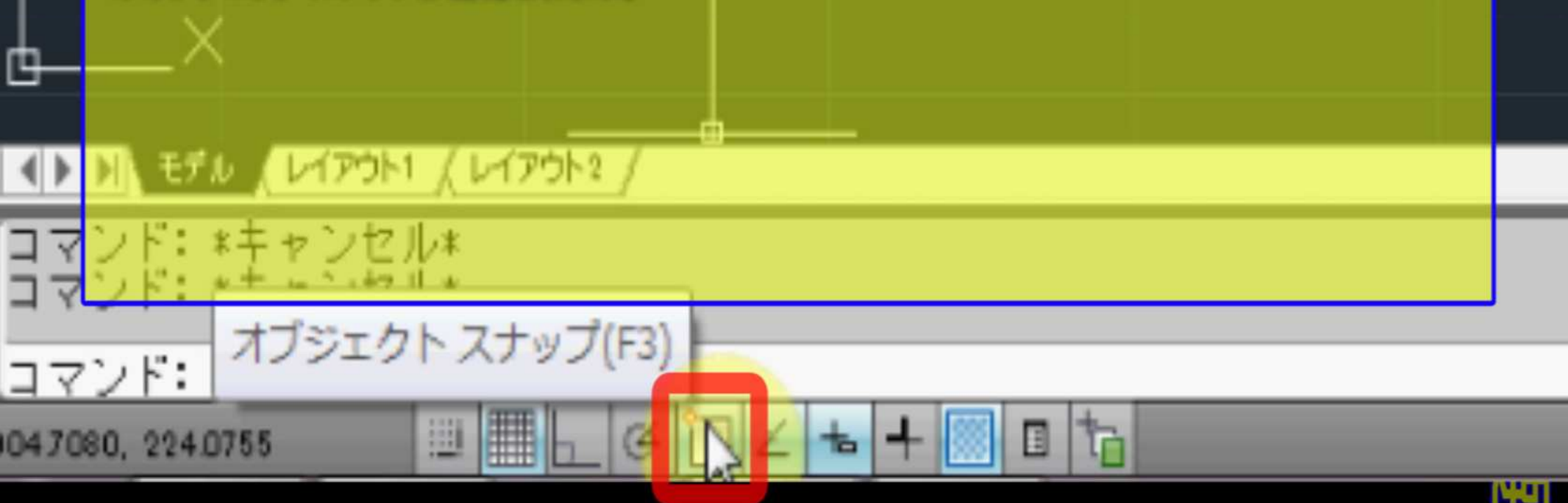
047080, 224.0755



## ■ オブジェクトスナップ

オブジェクトの正確な位置を指定するために、オブジェクトスナップを使用します。  
たとえば、円の中心や、ポリライン セグメントの midpoint に線分を描くことができます。  
点の指定を求めるプロンプトが表示された場合は、いつでもオブジェクトスナップを指定できます。  
カーソルをオブジェクト上のオブジェクトスナップの位置に移動すると、マーカーとツールチップが表示されます。

点の指定を求めるプロンプトに対してオブジェクトスナップを指定した場合は、次に指定する点に対してのみオブジェクト スナップが適用されます。



## ■ オブジェクトスナップトラッキング

- ・特定の角度で、または他のオブジェクトとの特定の位置関係を維持して、位置合わせパスと呼ばれる特定の方向に沿ってオブジェクトを描くことができます。
- ・オブジェクトスナップトラッキングは、オブジェクトスナップとともに機能します。
- ・オブジェクトのスナップ点からトラッキングするには、その前にオブジェクトスナップを設定しなければなりません。
- ・オブジェクトスナップ点を基準にした位置合わせパスに沿ってトラッキングするには、オブジェクトスナップトラッキングを使用します。
- ・取得した点には小さなプラス記号 (+) が表示されます。
- ・一度に7つまでトラッキング点を指定できます。
- ・点を取得した後、作図パスに沿ってカーソルを移動すると、その点を基準にして水平、垂直、または極の位置合わせパスが表示されます。  
たとえば、オブジェクトの端点や中点、またはオブジェクト間の交点を基準にしたパスに沿って点を指定できます。

注:オブジェクトスナップトラッキングがオフでも、コマンドで最後に指定した点からPER [垂線] または TAN [接線] のオブジェクト スナップをトラッキングできます。

オブジェクト スナップ トラッキング(F11)

## ■ ダイナミック入力

- ・ダイナミック入力を使用すると、カーソルのそばにコマンドインタフェースが表示され、作図領域に集中することができます。
- ・ダイナミック入力をオンにすると、カーソルのそばに表示されるツールチップの情報が、カーソルの移動に合わせてダイナミックに更新されます。  
コマンドをアクティブにすると、ユーザーの入力位置にツールチップが表示されます。
- ・コマンドを完了したりグリップを使用するために必要な操作は、コマンドのプロンプトから操作する場合と同じです。違いは、カーソルのそばに注意を集中できる点です。
- ・ダイナミック入力は、コマンドラインに代わるものとして設計されたわけではありません。  
コマンドラインを非表示にして図面の表示領域を拡大することはできますが、操作によってはコマンドラインを表示しなければならない場合もあります。
- ・必要に応じて、コマンドプロンプトやエラーメッセージの表示 / 非表示を切り替えるには、  
[F2] を押します。または、コマンドウィンドウをドッキング解除し、[自動的に隠す] を使用して、  
ウィンドウの表示 / 非表示を自動的に切り替えることもできます。

注: [F12] キーを押したままにすると、ダイナミック入力を一時的にオフにできます。

ダイナミック入力(F12)

コマンド:

047080, 224.0755



## ■ 線の太さを表示 / 非表示

- ・線の太さは、図面内でオン / オフを切り替えることができます。
- ・モデル空間では、ペーパー空間レイアウトとは異なる形式で線の太さが表示されます。
- ・モデル空間では、値が0の線の太さは1ピクセルで表示されます。  
それ以外の線の太さは、実際の単位の値に比例したピクセル幅になります。
- ・ペーパー空間レイアウトでは、線の太さは実際の印刷幅で表示されます。  
1ピクセルより大きい値の線の太さを使用していると、再作図時間は長くなります。  
プログラムのパフォーマンスを最適化するには、線の太さを非表示にします。
- ・ステータスバーの [線の太さを表示 / 非表示] ボタンをクリックすることで、線の太さの表示 / 非表示を切り替えることができます。この設定は、線の太さの印刷には影響しません。

注:線の太さのあるオブジェクトに適用された、端部や結合部のさまざまなスタイルは、[印刷プレビュー] コマンドまたは [印刷] コマンドを使用すると、完全プレビューでのみ表示されます。  
レイアウトと印刷プレビューでは、線の太さは実際の単位で表示され、線の太さの表示はズーム倍率に応じて変化します。[印刷] ダイアログボックスまたは [ページ設定] ダイアログボックスで、印刷時の線の太さや図面の線の太さの尺度をコントロールできます。

線の太さを表示/非表示

コマンド:

047080, 224.0755



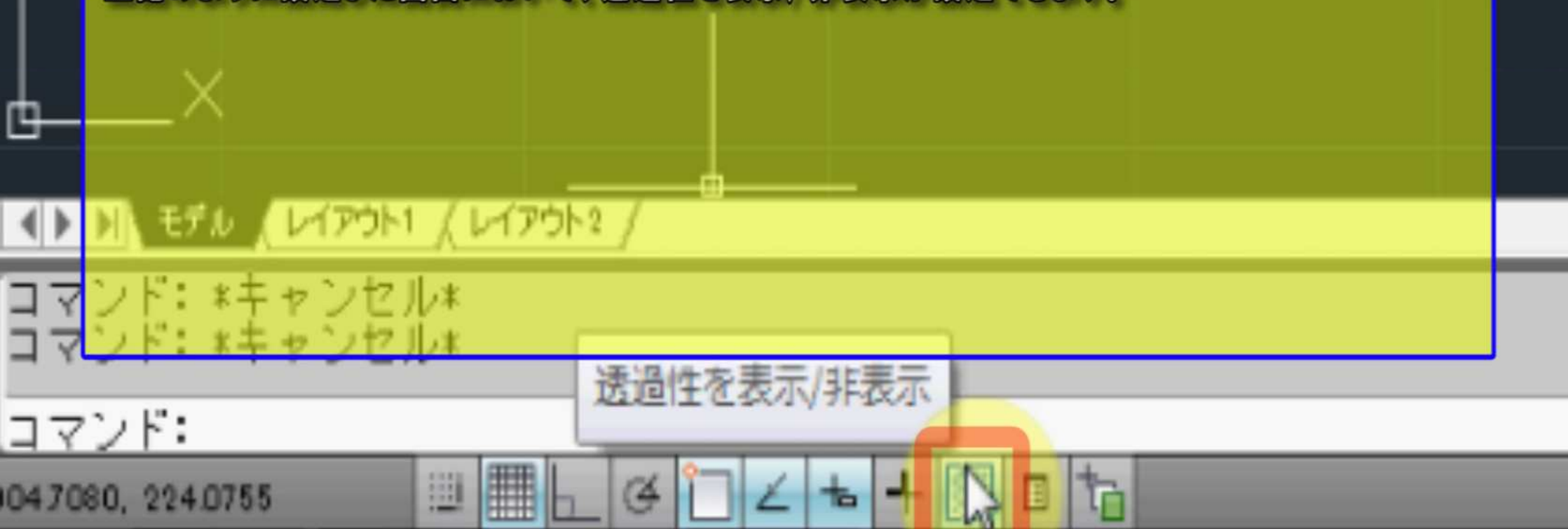
## ■ 透過性を表示 / 非表示

AutoCADでは、必要に応じて特定の画層上のすべてのオブジェクトの表示を減らすことにより図面を向上させる事を可能にするため、画層やレイアウトビューポートの透過性が設定できます。

画層（またはレイアウトビューポート）の透過性は、[画層プロパティ管理]で設定します。

画層に透過性を適用した後は、その画層に追加されるオブジェクトはすべて、同じレベルの透過性で作成されます。画層上のすべてのオブジェクトの透過性プロパティは、[ByLayer]に設定されます。

上記のように設定した図面において、透過性を表示 / 非表示が設定できます。



## ■ クイックプロパティ

選択したオブジェクトのクイック プロパティ データを表示します。

1つまたは複数の選択したオブジェクトのクイック プロパティ パレットを表示します。

クイック プロパティ パレットには、オブジェクト プロパティのカスタマイズ可能なリストが表示されます。

クイックプロパティパレットの動作は、[作図補助設定] ダイアログボックスの [クイックプロパティ] タブでコントロールされます。

